

「良いものをくださる方」

ヤコブの手紙 1：9-18

私たちを造られた神さまは、私たちが「命の冠」を得るために「良い贈り物」(17 節)を与えてくださいます。けれども、その贈り物は私たちの目から見て、いつも「良い贈り物」とは限りません。思わず“神さま、どうしてですか！”と叫びたくなるような人生の「試練」(12 節)を与えられることがあります。

その叫びは、私たちの当然の心情とも言えるでしょう。しかし、その叫びは良い方向にも悪い方向にも、どちらにも傾く可能性があるのです。ともすると、それは神さまに対する疑いとなり、信頼を失ってしまうことにもなりかねません。そのような私たちの気持ちが、「神に誘惑されている」(13 節)という言葉に表されています。

この「誘惑」という言葉は、「試練」と訳されている言葉と同じものです。私たちは人生において、いろいろな失敗や苦難に会います。そのことを信仰をもって受け止めるとき、それは私たちの信仰を強める試練となります。けれども、自己の欲求をもって受け止めるなら、それは私たちを滅ぼす誘惑となってしまいます。

しかし、神さまは私たちを試みて、不幸に落とし入れるお方ではありません。神さまが私たちに与えてくださる試みは、必ず私たちに益となる試みです。「命の冠」を与えるための「試練」です。神さまが私たちに試練を与えるのは、神さまが願われるところに私たちを立たせるためです。そこは、誘惑するものが決して近づけない聖なところ です。ですから、私たちが誘惑されるということは、私たちが誘惑される場に立っているということです。つまり、神さまから離れてしまっているということです。私たちは、神さまのところから自分自身の欲望に引かれ、おびき寄せられて誘惑されるのです。誘惑に陥るのは、私自身が御言葉の中に留まっていないことが問題なのです。

では、そのとき私たちはどうすればよいのでしょうか。そのときにすべきことはただ一つ、悔い改めて神に立ち帰ることです。創世記において、神さまが御言葉に背いたアダムに語りかけた言葉は「アダムよ。あなたはどこに立っているのか」(創3：9)というものでした。アダムはすでに唆される場に立っていました。そのアダムへの神さまの呼びかけは、神さまに背いた罪を責め立てる声ではなく、アダムに立ってはならないところにいることを知らせてくださる愛の御声でした。そして、神さまの御声は、アダムだけではなく、今の私たちにも「あなたはどこに立っているのか」と同じように呼びかけてくださるのです。

17 節には、「良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです」とあります。父なる神さまは、私たちに「良い贈り物」をくださるのです。それが神さまの御心です。それは、イエス・キリストを与えてくださるほどに私たちを愛しているからです。この神の御心に信頼することが、信仰のすべてと言っても良いかもしれません。

しかし、それでも私たちの人生には、現実には失敗や挫折、苦しみや悲しみと言った「試練」があります。およそその試練は、その最中にある人にとっては、一点の希望も見いだせない絶望以外の何物でもないかもしれません。おそらく自分ひとりの力だけでそれを乗

り越えることは、大変厳しく難しいことでしょう。けれども、神さまは、ただ試練を与えられるだけではありません。私たちがその試練に打ち勝つことが出来るように、いつも手を差し伸べて支えてくださっているのです。イエス・キリストがその道を先立って歩んでくださり、聖霊によって私たちの内に住んでくださり、私たちと共にこの道を歩んでくださっているのです。だから私たちは、この試練を通して、ますます神さまとの交わりが強くなり、神さまへの信頼が深められていくのです。

私たちの人生には、喜びや楽しみもあれば、苦しみや悲しみと言った影の時間が訪れるときもあります。けれども、「光の源」(17 節)である父なる神さまは、変わることなく私たちを照らし続けてくださっています。「良い贈り物」を与えようと働き続けてくださっています。その父なる神さまを信頼して、「試練」の中にも変わることなく「良い贈り物」が隠されていることを信じて、それを受け止める。そのとき、私たちは「造られたものの初穂」(18 節)とされるのです。「真理の言葉」(18 節)によって新しく創造された神の子とされるのです。そして、神さまが与えてくださる新しい命こそ、私たちにとって最高の恵みなのです。